

VI むすび：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて

本調査においては、ボランティア活動を始めとする市民活動とソーシャル・キャピタルの関係に焦点をあて、わが国におけるソーシャル・キャピタル論の適用可能性を探った。

その結果、ソーシャル・キャピタルの培養とボランティア活動を始めとする市民活動の活性化には、互いに他を高めていくような関係、すなわち、「ポジティブ・フィードバック」な関係がある可能性が分析・抽出された。

そして、自発的な市民活動がソーシャル・キャピタルを培養する実際の状況としては、新たな市民活動が「地域固有の課題発見力、あるいは課題対応についての先駆性」や地域住民の相互理解を促進していく「人間関係づくりを行うリーダーシップとコーディネーターとしての役割」と共に、多様な人や組織を繋ぐ「コミュニケーションのための公共空間の場の提供」といった要素をあわせ持っている場合には、橋渡し型のソーシャル・キャピタルを培養する苗床となり、さらには既存のソーシャル・キャピタルを活性化させる可能性があることが理解された。

ポジティブ・フィードバックの関係を有効に機能させていくためには、市民活動自体が、上記のような水平的でオープンなネットワークを形成していくこととあわせて、課題解決等活動の成果の実現などにより、活動に対する社会的な評価、信頼を得ていくことが重要であろう。それが、市民活動への理解者、支援者等を増やして、信頼に基づいたネットワーク（ソーシャル・キャピタル）を拡大する原動力となり、更なる自発的な市民活動の発展に結びつくという好循環をもたらすと考えられる。

さらに本調査では、わが国の地域別のソーシャル・キャピタルの定量的な把握を試み、相対的には大都市部で低く、地方部で高いという結果を得た。この試算結果を用いた部分的な分析ではあるが、例えば失業率の抑制や出生率の維持などの国民生活面でソーシャル・キャピタルが寄与している可能性が認められた。

このように、ソーシャル・キャピタルの蓄積は、将来に向けて「活力ある地域」「安心・安全な地域」を形成するための要素になり得る可能性を秘めている。

また、さらなる分析が必要であるものの、わが国のソーシャル・キャピタル蓄積状況の動向は全国レベルではこの四半世紀の間大きな変化がなかったかもしれないが、近所づきあいには減る方向で推移している。地域別にみると、ソー

シャル・キャピタルが相対的に豊かな地方部では減少している可能性が窺われた。ソーシャル・キャピタルの豊かな地域では、地域で支えあう土壌があると考えられるが、コミュニティの崩壊と再生は、既に大都市部だけの問題ではなく、地方部においてより深刻となりつつあるのかもしれない。

豊かな人間関係と市民活動の好循環、すなわち「信頼やネットワークの再生産」を促進するソーシャル・キャピタルの培養を図っていくことが今まさに求められる時代となっているのではないだろうか。